＜創立 80 年を前にして＞

-- 先ず神の愛、在りき --

ボーイスカウト東京港第 1 団
名誉団委員長　　杉原 正

[はじめに]

ボーイスカウト東京港第 1 団(旧・東京第 4 隊)が霊南坂教会を育成団体としてスカウト活動が始まったのは、1947 年(昭和 22 年) 2 月 22 日。

当時は、太平洋戦争の終戦後で、まだ「衣・食・住」が十分には整わず混沌としていた時代でした。霊南坂教会の日曜学校の中学生と近隣の西桜小学校生徒での 10 余名の少年達でスタートしました。

また、2 月 22 日は、スカウト運動の創始者であるベーデン・パウエルご夫妻の誕生日でもあり、各国,各地域,団などで B-P を追憶して各種の行事などが行われております。霊南坂教会は毎年 2 月 22 日の直前の日曜日に「スカウト・サンデー」として特別な礼拝、〝先ず神の愛ありき”の B-P のキリスト教信仰により萌芽したスカウト活動が始まったとき、まだ日本連盟は組織されていなくスカウトの「ちかい」(On my honor, I will do my best to do my duty to God---) や「おきて」またソングも英語で覚えたことを思い出します。

霊南坂教会でのスカウト活動の成り立ちやその足跡については、これまで折々の節目である周年行事や育成会総会の資料に記述させていただいていますが、創立 80 年を 2 年後にして改めて記憶に留めたいと思料いたします。

[霊南坂教会 100 年史から①]

1979 年 10 月に刊行された「霊南坂教会 100 年史」ではスカウトの結成とその後の歩みについて、次のような記述があります。

「霊南坂教会にボーイスカウトが最初に組織されたのは 1947 年 2 月のことである。当時、小﨑道雄牧師は、日本基督教団議長の重責を担いながら、連合国軍の占領政策が日本の民主化を基調とし、わけてもキリスト教会に好意的であったことから、次々と来日する宣教師たちと親交を深めていき、また GHQ とも関係していた。

占領政策の一つとして試験的にボーイスカウト運動を再建する話題が出て、軍属(スタッフ)として駐留していたマーティン・ウイリアム青年と小﨑との話し合いから、そのモデル・ケースとして 10 余名の日曜学校生徒などによって、戦後の日本で最初に組織されたものである。もちろん日本連盟は未だ結成され

ていなかった。

ガールスカウトも翌1948年6月に、これも日本連盟に先駆けて、会員有志たちの努力によって誕生しました。

その後、年齢別に次々と組織の拡大・強化が図られ、その活動も活発になっていった。しかし、何もかも手さぐりで「ちかい」と「おきて」も英語で教えるという具合であったが、こうして霊南坂教会が手がけたスカウトの働きは、日本におけるスカウト運動の先駆的役割を果たした。

その後、ボーイスカウトにもガールスカウトにも連盟組織ができ、霊南坂教会におけるスカウトの名称も「ボーイスカウト東京第4隊(注・現東京港第1団)」、「ガールスカウト東京第4団」と名付けられ、それぞれ日本連盟に所属する公式の団体となり、しかも教会のスカウトとして独自の働きを続けた。初期の頃はもとどおり「チャーチ・スカウト」として機能や性格は、教会や教会学校の活動と表裏一体の関係にあり、隊員も徐々に拡大され、その隆盛期にはボーイとガールをあわせて250名を超える大世帯になった時もあった。」

[霊南坂教会100年史から②]

「スカウト運動それ自体は、教会の伝道と直結するものではないが、その創設者である英国人のベーデン・パウエル夫婦(Robert.S.S and Olave Baden-Powell)のキリスト教信仰と理想にもとづいてキリスト教的な人格形成を目指し、祖国の道義の向上、理想的な社会、健全で明るい家庭をつくることに寄与しようとする少年および少女のための運動である。

霊南坂教会は戦後の荒廃した都民の日常生活に、このような主旨をもって青少年を中心としたスカウト運動を積極的に取り入れ、地域への奉仕活動として推進したわけである。

1948年6月6日開催の長老会(注・役員会)小﨑から提唱され、この時すでに活動を始めていたスカウト活動を霊南坂教会が正式に承認すると共に、その円滑な活動と発展のために、教会の諸施設の活用はもとより、あらゆる面で理解と協力をすすめていくことを申し合わせた。

それ以降、霊南坂教会におけるスカウト運動は連盟等への委員等の人材提供派遣をはじめ、国際ジャンボリー(注・現世界スカウトジャンボリー)への日本代表派遣などの活動と共に、現在まで30余年間、平常は毎週1回(主として土曜日午後)の訓練活動を、また夏や冬の特定期間には集中的に野外活動、キュンプなどを中心に活動を続けている。」

[スカウト憲章について]

スカウト運動を展開する各国スカウト連盟と地域が加盟して「世界スカウト機構」を構成し、組織しています。

この機構が決める「世界スカウト機構規約」があり、通称「スカウト憲章」として示されています。

第１条の「定義」では、〝スカウト運動は、創設者(注・B-P)によって考案された目的,原理,方法および以下に述べる事項に従って性別,出生,人種,信条による区別なく誰をも対象とした青少年のための自発的非政治的な教育的運動である。”

第２条には「原理」と「ちかいとおきての遵守」が明記され、“スカウト運動の全ての加盟員は、「神へのつとめ」「他へのつとめ」の原理を反映し、各国スカウト連盟の文化や文明に適切な言語で表現され、世界機構によって承認されたスカウトの「ちかい」と「おきて」を遵守することが要求され、またそれによって導かれる。” と教示しています。

“スカウト運動の創設者によって当初考えられた「ちかい」と「おきて」は、以下のものである。”

〈スカウトのちかい〉

私は名誉にかけて、次のことに最善を尽くすことをちかいます。

・神と国王(あるいは神と私の国)に対する私のつとめを果たすこと。
・いつも他の人々を助けること。
・スカウトのおきてを守ること。

スカウトの“ちかい”で最も注目しなければならないことは、「私は名誉にかけて、次のことに最善を尽くすことをちかいます。」であり、”On my honor, I will do my best ”と表記していることに注目しなければなりません。

“ I will do my best ”(最善を尽くす)が、キー・ワードとなります。

〈スカウトのおきて〉

1. スカウトの名誉は、信頼されることである。
2. スカウトは、忠実である。
3. スカウトのつとめは、他人の役に立ち、他人を助けることである。
4. スカウトは、すべての人々の友人であり、他の全てのウスカトと兄弟である。
5. スカウトは、礼儀正しい。

6. スカウトは、動物の友である。
7. スカウトは、親や班長まちは隊長の命令に黙って従う。
8. スカウトは、いかなる苦境にあっても微笑み、口笛を吹く。
9. スカウトは、倹約する。
10. スカウトは、思考,言葉,行動において健全である。

日本におけるスカウトの「おきて」は、“スカウトは、○○である”との表記が多く、主文に加えて副文が添えられており、スカウトに分かり易く、また行動「行い」を起こし易くする心配りがされています。

B-P が起草したスカウトの「おきて」の第 1 番目に“スカウトの名誉は、信頼されることである。”としたことに注目しなければなりません。

また、スカウトの「ちかい」は、三条の実行をちかい、その 1 番最初は、「一、(ひとつ)、神(仏)と国とに誠を尽くし、“おきて”を守ります」としていることにあります。そして主語は、“私は名誉にかけて(On my honor)”で始まっていることに意図があります。(スカウトの名誉は信頼されることである。)

[スカウトの「ちかい」をたてる]

スカウトの「ちかい」については、教育規定で“ボーイスカウトは、入隊に際してスカウトの「ちかい」をたてる”と明記しています。

ベンチャースカウトおよびローバスカウトは、入隊または上進に際して、スカウトの「ちかい」をたてるか、これを再認する、としています。

また、指導者については“はじめて指導者になるときは、スカウトの「ちかい」をたてるか、これを再認する”としています。

霊南坂教会で東京第 4 隊として活動が始まった 2 年後の 1949 年 4 月に日本連盟が組織され、スカウトの「ちかい」と「おきて」が制定されました。

この制定に関わった先達達は、B-P の原文から単なる“やくそくをする”ではなく「ちかいをたてる」と精緻(せいち・細かい点まで注意が行き届いてよくできている)されています。

「ちかいをたてる」の「たてる」は“はっきり示す”の意味があることを了知してほしいと思います。

また、神や仏に願いをする“願(がん)をたてる”の“たてる”には“新たに起こす”の意味があることも注目したいと考えます。

「ちかいをたてる」ことの「たてる」意味についてスカウトに正確に説明し、伝える責務が指導者にある、と思料します。

[最も重要な掟〈おきて〉]

新約聖書の中で「最も重要な掟」について数カ所(マタイによる福音書、マルコによる福音書、ルカによる福音書など)に記述があります。

様々な人種やいろいろな職業の人々が集まった群衆が議論を聞いていました。“一人の律法学者(注・法律家)が進み出て、イエスが立派にお答えになったのを見て尋ねた「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか」。イエスはお答えになった。

「第一の掟」は、これである。「聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。」「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」

「第二の掟」は、これである。「“隣人を自分のように愛しなさい”」そして「この二つの掟にまさる掟は、ほかにない。」と教示されています。

スカウトは、入隊にあたり、また私たち指導者は、就任にあたり“おきて”を守る、というスカウトの最初にある「神と国とに誠(まこと)を尽くし、“おきて”を守ります」を表明しています。

“おきて”の根底にあるものは“心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして”であり、「I will do my best 」の「最善を尽くす」ことを誓っています。

スカウトの“ちかい”と〝おきて”の成り立ちを思考するとき、前述の聖書にある“この二つの掟にまさる掟は、ほかにない”によるものと思料します。神への愛は、隣人への愛であり、“I will do my best to do my duty to God”に繋がるものと考えます。

[過去、現在、未来は、一直線上にある]

あと2年足らずで、スカウト活動が霊南坂教会で創設されて80年を迎えます。80年は大きな節目。節目ではしばしば佇み、いま(現在)の状況を凝視(目をこらして、じっとみつめる)することが必須になります。そのあとで歩んできた過去の事実を検証しなければなりません。

その上で現在が積み重なって実現するであろう未来を洞察することを、この節目のときに、行うべきではないでしょうか。

過去、現在、未来は、一直線上にあると考えることがとても大事なことと思います。〈今を見詰め、過去を知り、未来に思いを馳せる〉ことが肝要と考えます。

歴史を考えるとき、思い起こすのが、中国の「論語、為政」にある「温故知新」(おんこちしん)、---古きを尋ね、新しきを知る--- であります。

〈古きを訪ねて新しい物事に適応すべき知識・方法を得ること〉。であります。

スカウト運動にあって〈古きを訪ねる〉ことは、やはり創設者 B-P が考案されたスカウト運動の理念に基づいているか、ではないでしょうか。

スカウト運動を、学校の形態(タイプ)で考察すると市・町・村立または県立などの公立学校ではなく「私立学校」であると思料します。

私立学校の特徴は、教育理念が創立者などによる建学者の教育・方針(建学の理念)に基づいているからであります。スカウト運動は、私立学校と同様に創設者の理念を堅持しなければ現在に存立する意味はありません。

[おわりに]

冒頭の[はじめ]に紹介した「スカウト・サンデー」が特別な礼拝として、今年は 2 月 16 日(日)に行われました。そのあと愛餐会が開かれ、その折にスカウト達がいつも唱っている、動作付きの歌を出席者全員で唱いました。

“愚か者が砂の上に家を建てた。雨が降って水が湧き、川となって、その家は倒れた。賢い者が岩の上に家を建てた。雨が降って水が湧き、川となったが、その家は倒れなかった。”と比喩のある歌。

この歌を唱う度に思いを致す(普段は、おろそかにしがちな問題や存在について、原点に立ち戻って考えてみたり、しみじみと思いをめぐらしたりする)ことがあります。

「岩」という、強い基盤(岩盤)である創設者 B-P の提唱したスカウトの「ちかい」と「おきて」の上に私の、または私達のスカウト活動は建っているか、がいつも問われています。

創設者 B-P の“先ず神の愛ありき”のキリスト教信仰から萌芽したスカウト運動は、聖書に示された最も重要な掟(おきて)に基づいて「On my honor, I will do My best to do my duty to God and my country and to obey the scout Low,(私は名誉にかけて、神と国とに誠を尽くし、おきてを守ります)と誓っていることを忘却してはならない、と思料いたします。

この節目を前にして、初心に返って{チャーチ・スカウト}であることを再認識したいとおもいます。

いつもスカウト運動を覚えてご理解とご協力下さる教会の皆様、またこれまでスカウト、指導者、育成会員として支えてこられた方々に深く感謝いたします。

(2025 年 5 月 10 日)